

# 平和行進活動交流ニュース

発行：原水爆禁止国民平和行進中央実行委員会事務局団体・日本原水協 2019年 5月28日 発行  
電話：03-5842-6035 FAX：03-5842-6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com

## 核兵器全面禁止・廃絶の声を広島・長崎・世界へ届けよう

5月31日から6月16日まで東京→広島コースの愛知・岐阜を行進する国際青年リレー行進者のガリレオ・カスティーリョさん（フォーカス・オン・ザ・グローバル・サウス フィリピン）のスピーチを紹介します。



私はガリレオ・デ・グスマン・カスティーリョです。フィリピンから来ました。私はフォーカス・オン・ザ・グローバル・サウスというアジアにある活動家政策シンクタンクで働いています。タイ、カンボジア、インド、フィリピンに事務所を置き、公正な社会と経済、政治変革のための分析や代替案の構築をおこなっています。私たちは、企業主導のグローバルイゼーション、新自由主義、軍事化に関する各国および国際的な政策について、批判的分析や議論を起こすために、政策研究、キャンペーン活動、政治的教育、草の根の能力開発に熱心に取り組んでいる活動家の集団です。

日本の2019年国際青年リレー平和行進で、反核平和活動家の同志のみなさんとともに歩くことができ大変光栄です。同時に身が引き締まる思いです。今回初めてこの美しい国を訪れ、日本のみなさんとともに行動し、自分自身の視野や見解を広げ、同じアジアの兄弟姉妹のみなさん、特に被爆者の方がたと日本の青年たちの証言と経験から学ぶ機会をいただいたことに感謝しています。

「青年こそが変化をもたらす主体であり、変革の原動力である」と、ラオスの地域社会の開発活動家であるソムバット・ソムポン氏が言ったように、青年たちが真の改革のたいまつを掲げるリーダーとなれるよう、青年、学生たちの間に連帯を作り出すことは必要不可欠です。彼らは現在と将来の世代にとっての希望なのです。

私は何年もの間、農民、漁民、農村女性、労働者、先住民、学生、青年など、さまざまな分野で多くの地域社会の人びととともに活動してきました。そして気候・環境の正義、先住民族の権利、従来とは異なるオルタナティブな地域主義、平和問題分野での研究、活動、政治教育に取り組んできました。

私は戦争ストップ連合 (StWC)、ミンダナオ人民平和運動 (MPPM)、ノーニュークスアジア



フォーラム (NNAF) を含むさまざまな平和団体との関わりを通じ、平和を土台から築いていく意味を初めて垣間見ることができました。なぜ多くの人々が貧困の蔓延、格差の広がり、激化する人権侵害、今も続く不正義によって苦しみ続けているのか、「平和」の本当の意味とは何か、暴力と刑罰逃れが広がる中、公正で恒久的な平和を実現するための実質的なアプローチとはどういったものなのかに疑問を抱き、考えるようになりました。

異なる人びとの組織や連合体、運動と連帯して過ごしたことで、紛争の原因を分析すること、草の根コミュニティの視点からその背景を理解することの重要性を学びました。

「平和ではない」状態が、社会、経済、政治、文化、環境的側面などさまざまな要素が複雑に絡み合って作りだされていることも知りました。そして、「平和」とは、ただ単に戦争や武力紛争をなくすことだけではなく、社会的、環境的な正義、平等、持続可能な開発を求める努力と深く結びついたものであることを学びました。このため、私が組織の中でテーマとしている3つの分野は、開発・権力・民主主義の政治経済学、人民による代替策、そしてジェンダーと気候、環境正義の分野を横断する諸問題です。それらすべてが、公正で恒久的な平和というコンセプトに共鳴しています。

私たちの目標は、1. 抑圧的な経済、政治構造、制度の解体、2. 解放的な構造と制度の構築、3. 非軍事化と平和構築の促進です。これらの3つの目標は、脱グローバル化、つまり多国籍企業のニーズにフォーカスを当てたグローバル経済を人びとのニーズにフォーカスしたものに変えること、そして地域と各国経済の能力を強化するという枠組みの中で結びついています。

被爆者の方がたから学び、彼らの情熱、哲学、そして平和で公正で持続可能な世界への展望を受け継いで進むことができ、それは光栄です。私たちの責務は、人びとのレジスタンスと草の根の連帯をより確固なものにしていくことです。彼らの闘いは私たち自身の闘いです。

今フィリピンの私たちは、混乱と激動を経験しており、歴史上非常に重大な時期にあります。私たちは独裁的で軍事主義的、抑圧的な政権に直面しています。未解決の紛争と歴史の中で蓄積された不満が入口となって、原理主義と過激主義が拡大しつつあるのです。

政府の経済政策は依然として全てが、市場と企業、新自由主義勢力と利益に依存しています。環境と共有財は、国家と企業に利益を搾り取られ、無駄な大建設計画のもとでの巨大インフラへの投資によって、消滅寸前の危機にあります。成長するこの国の経済を勢いづけるために、放置されていたバターン原発 (BNPP) を復活させようという計画が持ち上がり、将来の原子力エネルギー開発のためにフィリピン全土に13カ所の候補地が特定されています。

あらゆる戦争と核兵器に反対する、平和を愛する人たちのこの高まりつつある運動の一

翼を担うことが、今ほど重要な時はありません。

現在の危機的な局面において、今こそ私たちがこの平和を脅かす課題に取り組み、抑圧的な構造や制度、権力と闘い、抵抗する時です。

ブラジルの教育・哲学者であるパウロ・フレイレは彼の著書「被抑圧者の教育」の中で「支配者のエリートたちは、自由、秩序、社会的平和（すなわち、エリートたちにとっての平和）という言葉を使って、支配と抑圧を強化する手段を考える」と述べています。

抑圧、弾圧があるところに平和などあり得ません。エリート支配と戦争主義者による圧制があるところに平和など存在しません。自由のない平和は存在せず、平和のない自由もあり得ません。

だからこそ、私たちは草の根の人びとの連帯を築き、強め、公正で恒久的な平和のタペストリーを一緒に織り続けていかなければなりません。

私たちの平和行進への参加は、被爆者の方がたへの私たちの連帯の表明であり、被爆者の正義を求める呼びかけへの私たちの貢献です。そして核兵器廃絶にむけた国際キャンペーンを支持する私たちの強い決意の表明です。

最後に、フィリピンのレゲエバンド「トロピカル・ディプレッション」の「Kapayapaan（平和）」という歌の歌詞をご紹介します。

ここへきて、太陽の下で踊ろう  
手をつないで  
一緒にシャウトするんだ  
ピース、ピース、ピース、ピース  
肌の色が違って  
私たちの世界は一つ  
その世界は愛に飢えていて  
天国のキスを待っている  
この分断された世界を  
私たちの手でまた一つにしよう

